

半切四分の一に書くⅡ (10)

締切り 十月二十五日 (必着)



神谷 葵水 先生 書

◎本誌に条幅(半切)の課題が正式に設置されたのは、平成十一年七月のこと、その前の約八年間は、半切への足がかりとして半切四分の一のサイズ(約六八cm×十七、五cm)で条幅の基礎を学んでまいりました。

◎このコーナーでは、元愛知教育大学名誉教授・神谷葵水先生の当時のお手本をもとに、改めて条幅の基礎を学びます。平成二十六年にも一年間学びましたので、今回はパートⅡになります。

ります。

◎条幅は苦手という方、大きい作品に気後れしている方は、この機会にぜひ、条幅の草稿作りのつもりで気軽に取り組んでみましょう。

〔読み〕 虫鳴桑葉飛 (唐・李嘉祐)

〔大意〕 桑の葉が風に舞うころ、虫の鳴く音もしきりだ。

〔解説〕

・用紙に五文字をバランスよく収めることが大切です。行の中心、字間、天地のあき等に注意しましょう。紙を折る、下敷の罫を利用する等の方法もあります。

・お手本をよくみると、各字に大小の違いがあることがわかります。潤渇も考えてみましょう。その方が動きやリズムが出て表現が豊かになります。

・できる方は、書体や崩し方を変換してオリジナルな作品に挑戦して下さい。その際、字典でしっかり調べるのが肝要です。

・落款(署名・印)も作品の一部です。丁寧に収めましょう。印のない方は□を赤ペン又は朱墨で書いて下さい。

〔作品の出し方〕

▼毛筆部Ⅱ条幅半切四分の一(約六八cm×十七、五cm)に書いて下さい。

▼硬筆部ⅡB5版(二五七mm×一八二mm)以下の紙に課題手本のような枠線を引いて下さい。用具は自由ですが、細い線は相応しくありません。(フエルトペン・筆ペン可)

▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬毛のどちらか一方に限ります。

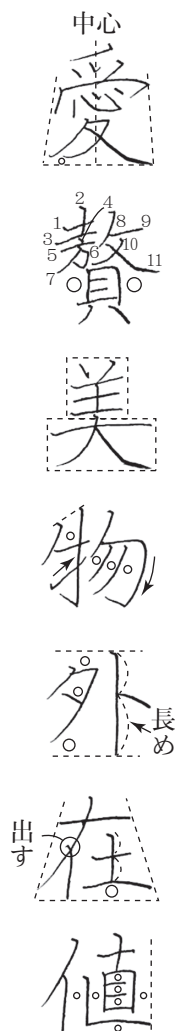
▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・毛筆漢字の成績(硬筆の場合は硬筆規定の成績)を、作品余白にお書き下さい。

▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



◎今月は楷書。楷書は文字の組み立ての基礎ですから、一線一画大切に運ペンし、常に精習する努力が上達の早道です。

▶教範・書範は右課題を「行草または草書」で、師範は「行書」で出書して下さい。

愛は贅沢である
美なる物の外には
存在の価値を認めぬ

おく むら のぶ ゆき 書
奥 村 暢 之

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

〔解説〕



神	無	度
聖	駄	と
に	な	超
見	知	し
え	識	た
る	は	

おお たに せい じょう 書
大 谷 清 城

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

★度を：（書体Ⅱ行書）

内堀 弘（一九五四～）

古書店「石神井書林」の店主

古書の転売で利ざやを稼ぐ人をセドリと言います。古書店主が極希少な本を探してその知識に頼ると、「ああ、あれならあの店に」と教えてくれます。めったに報われることのない緻密で膨大な知識は、時には神聖にすら見えることでしょう。

◆11月課題予告（楷書）

言葉は危険な
玩具で当てに
ならない暗号だ

★愛は：（書体Ⅱ楷書）

夏目漱石（一八六七～一九一六）

明治・大正期の小説家

愛は美しいものの存在しか認めないと、小説「野分」の中で書いています。しかし、その美学は常識のらち外にある場合が多いと思われます。愛している人のものなら、あばたでさえも可愛いえくぼに見えてしまうのが人の常ではないでしょうか。

◆11月課題予告（行草または草書）

人間の能力は

それが属している

社会の質に影響する

▼教範・書範Ⅱ行書

▼師範Ⅱ楷書

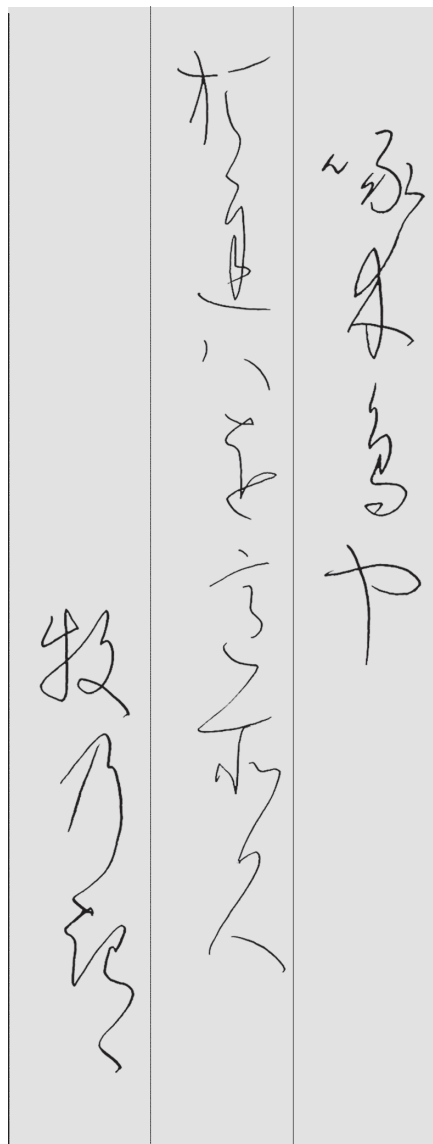
一般部かな課題

締切り 10月25日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

啄木鳥や落葉をいそぐ牧の木々



啄木鳥や落葉をいそぐ牧の木々

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

た なか き こう 書
田 中 貴 光

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙



た なか き こう 書
田 中 貴 光

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

啄木鳥や落葉をいそぐ牧の木々

(水原秋桜子)

【句解】冬が近づく牧場。落ち葉が地に散り急ぐようにしきりだ。啄木鳥の幹をつつく音が、落ち葉の翻りの調子をとるように聞こえる。

【鑑賞】この句は、清潔明快な印象画ふうの句で、西洋の牧場の軽快な油画のような味わいが青年の心を引きつけ、高原俳句と呼ばれて、秋桜子といえは真っ先に思い出される代表作となった。「きつつき」「まきのきぎ」に繰り返される「き」音「つ」音が、イメージに快適なリズム感を与えている。

【古筆参考】

遅 啄 木 鳥 や 落 葉 を い そ ぐ 牧 の 木 々
曾 そ そ そ そ そ
意 い い い い い
以 い い い い い
乎 を を を を を
遅 啄 木 鳥 や 落 葉 を い そ ぐ 牧 の 木 々

【解説】「そ」も「そ」も四画目は三画目の最後より少し左で止めると、バランスが良い。「そ」「そ」。「そ」の漢字は「幾」である。

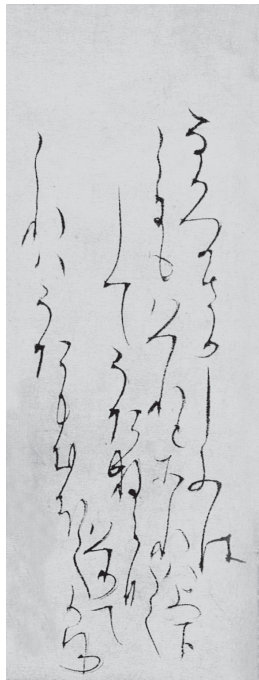
◆11月課題予告

能登が突き出で日のにながら秋の海

(中塚一碧楼)

〔古筆参考〕

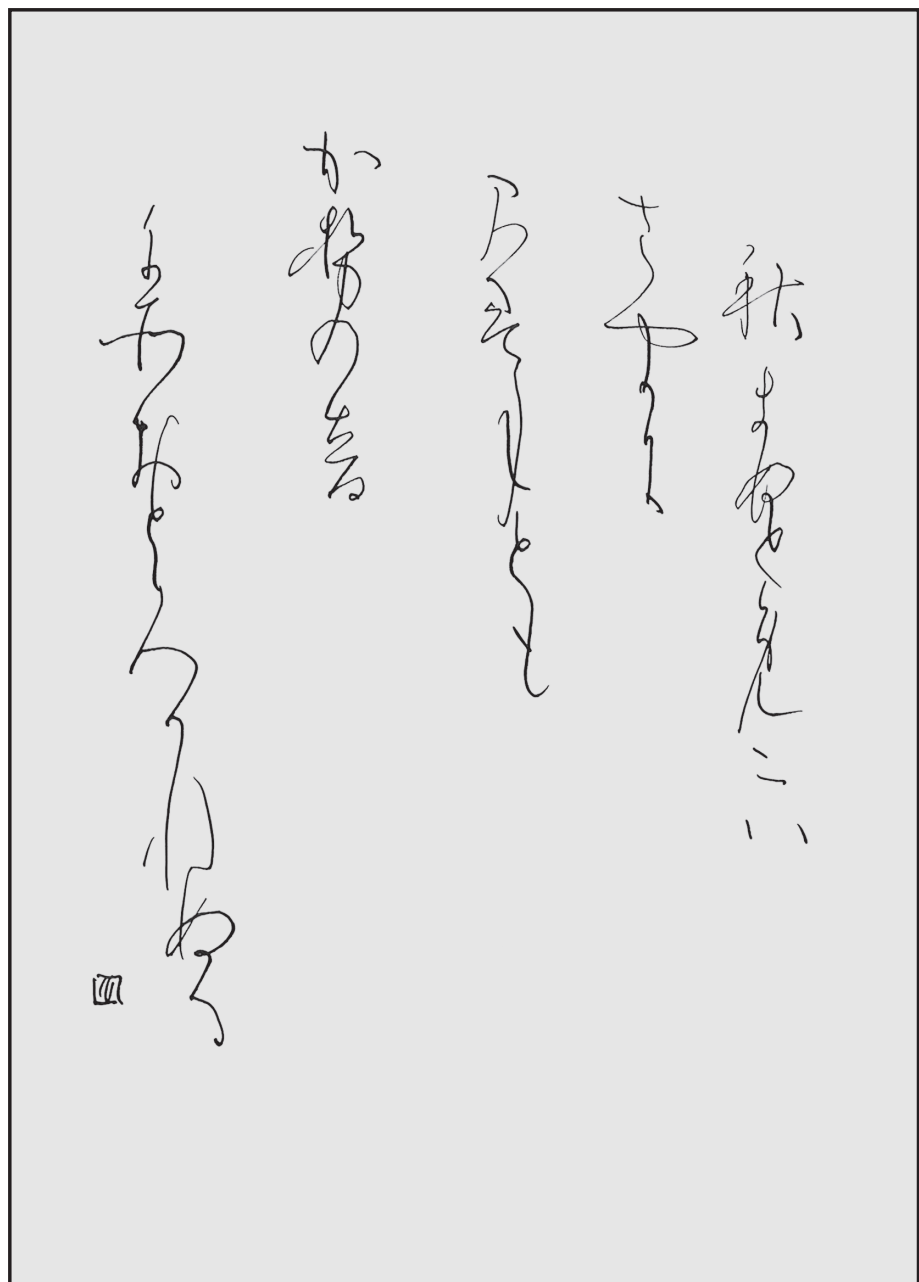
なかつかさしゅう
中務集



奈可
なかつかさ
可
がしふは、
奈可
こにもは
八
べれど
所
それは
八
上下
して、
数
うたすく
那
なく
ハ
はべりて、
利
これは
八
うたも
本
おほく
可
かはり
八
利

締切り 十月二十五日（必着）

築瀬舟香書



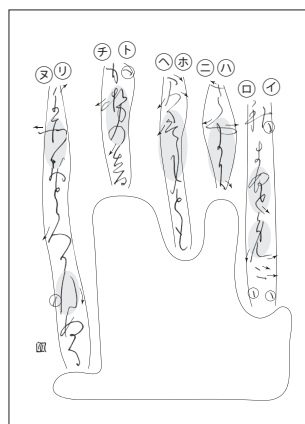
秋来ぬと目にはさやかに見えねども
風のおとにぞおどろかれぬる
支免二ハ可尔
秋来ぬと目にはさやかに見えねども
風のおとにぞおどろかれぬる
カ勢 尔所 可 盈年

〔歌意〕 景色を見ているだけでは、はつきりとわかりかねるが、風の音を聞くにつけ、ふと、秋が来ているのだな、と気づかされた。

〔出典〕 古今和歌集

（新潮日本古典集成）

〔解説〕



・イとロ、イとニ、イとハ、イとチ、
イとツ、ハとニ、ハとハ、ハとチ、
ハとツ、ホとハ、ホとチ、ホとツ、
トとチ、トとツ、リとツ、それぞれ
呼应。

・余白○大切。

・密の動き大切。

・ノの方向が作品をまとめる。

・行のふくらみ大切。

・○の位置に注意。

◆11月課題予告

冬ごもりおもひかけぬを木の間より
花と見るまで雪ぞふりける

締切り 10月25日(必着)

実千代さん、ご結婚おめでとう。
聞けば、同じ会社の先輩だとか。
人望の厚い方のように、いい人に
巡りあえて本当に良かったわね。
お二人の新しい人生に幸多かれと
私達も心から祈っています。

実千代さん、ご結婚おめでとう。
聞けば、同じ会社の先輩だとか。
人望の厚い方のように、いい人に
巡りあえて本当に良かったわね。
お二人の新しい人生に幸多かれと
私達も心から祈っています。

※手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。
(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

お 郷 すい こう
尾 郷 翠 光 書

浅草寺の本尊は金の像らしいが、
千年以上封印は解かれていない。

秋田県湯沢市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 10月25日(必着)

入
猶
且
兢
懷
夕

入
猶
且
兢
懷
夕

入
猶
且
兢
懷
夕

準初段から師範まで

奥
村
暢
之
臨

〔出典〕孔子廟堂碑（626～633）〔筆者〕虞世南（558～638）

〔読み〕（西に）入る。猶お且つ 兢 懷夕（暢し、）

秋
高
佳
風
月
よ
し

新入から1級まで（行書）

須
田
一
葉
書

〔読み〕秋高くして風月よし

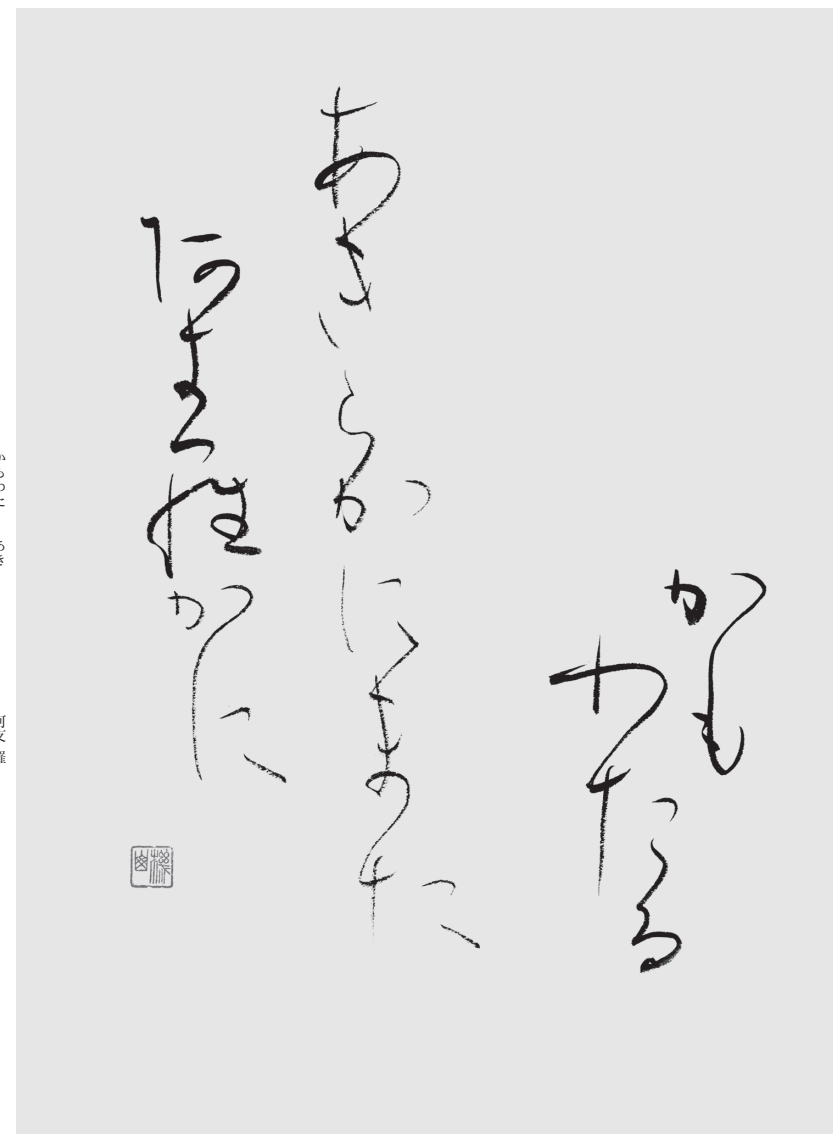
〔大意〕秋の空は澄んで高く、風や月など自然の趣がある。

一般部毛筆かな課題

締切り 10月25日(必着)

新入から1級まで

浅井機山先生書



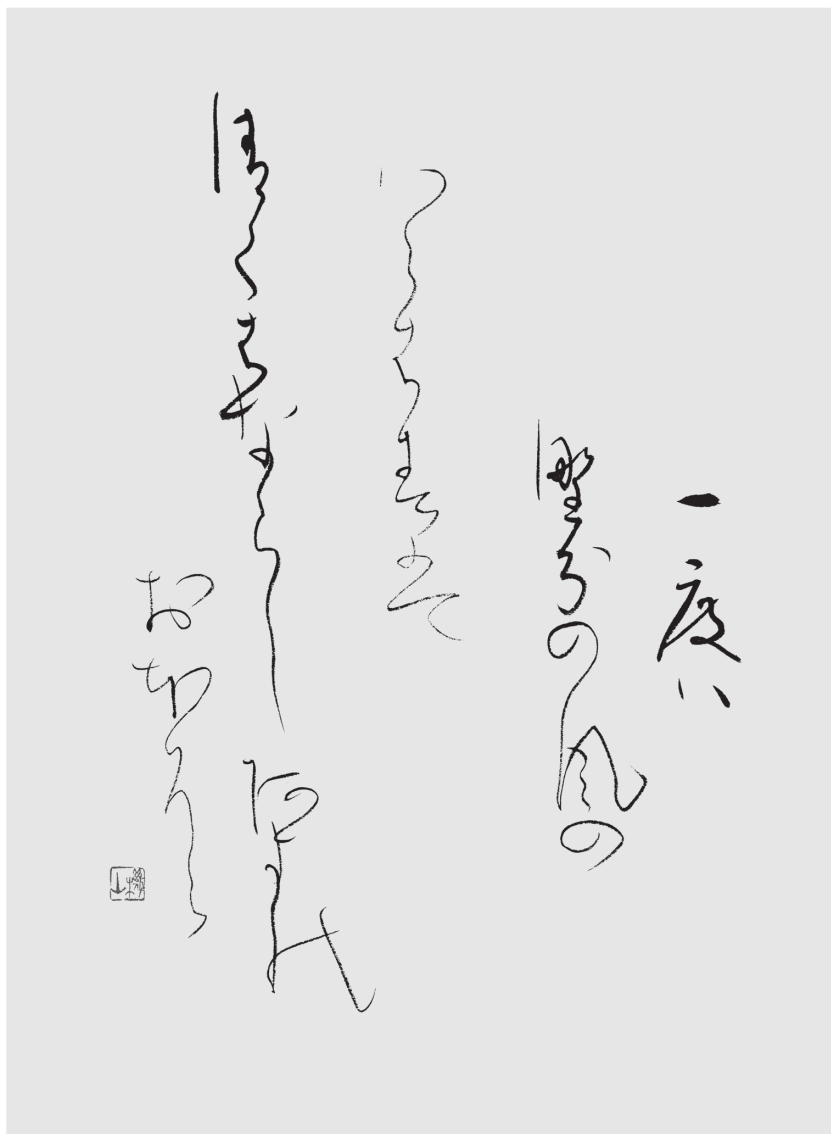
〔出典〕 高野素十

〔句意〕 晴れた青空を背景に鴨の群れが次々に渡って行く。その飛翔の様子が網膜にやきつくように把握された句。

準初段から師範まで

鴨渡る明らかにまた明らかに

■ 両課題とも文字の変換、ちらし方は自由です。



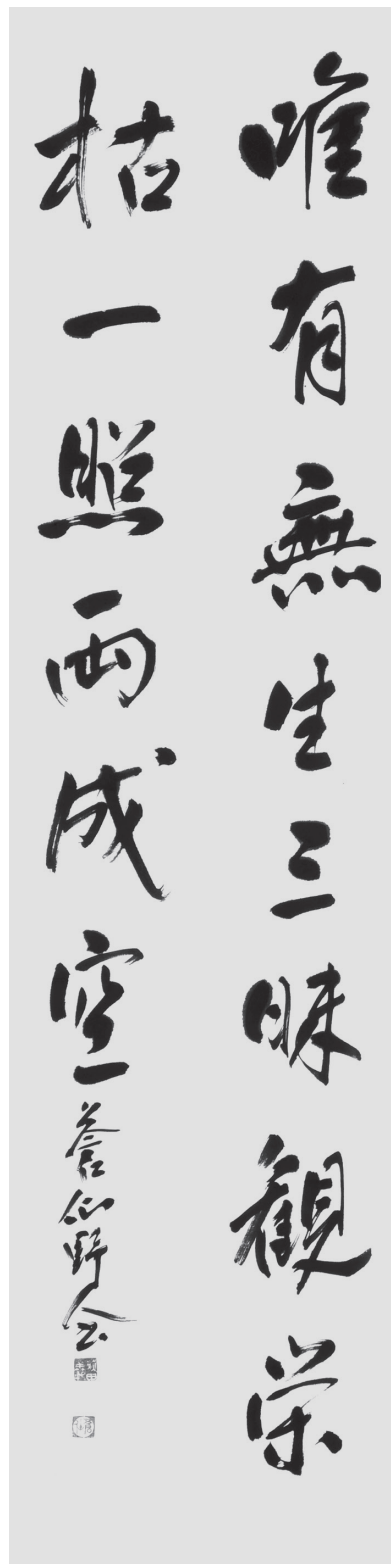
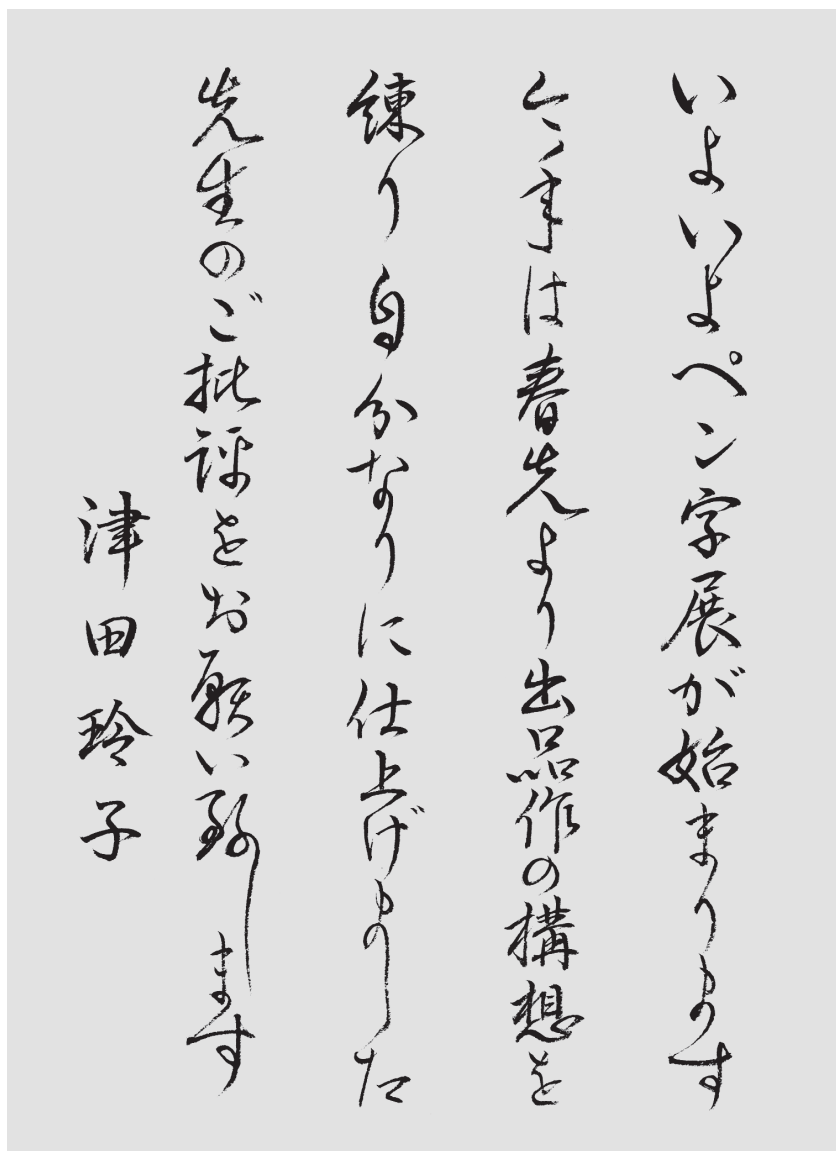
〔出典〕 野村望東尼

〔歌意〕 一度は秋の野分の風が吹き払わなくては、清くはならないのだろう、秋の夜空は。

一度は野分の風のはらはずば
清くはならじ秋の夜空

一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



締切り 十月二十五日（必着）

半切（一二六cm×三五cm）

荻田蒼仙書

半紙（334mm×240mm）

伊藤梅香書

- 〔条幅・細字作品の出し方〕
- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績（天位～5等）は、評価により毎月かわります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

・印で墨つぎしました。

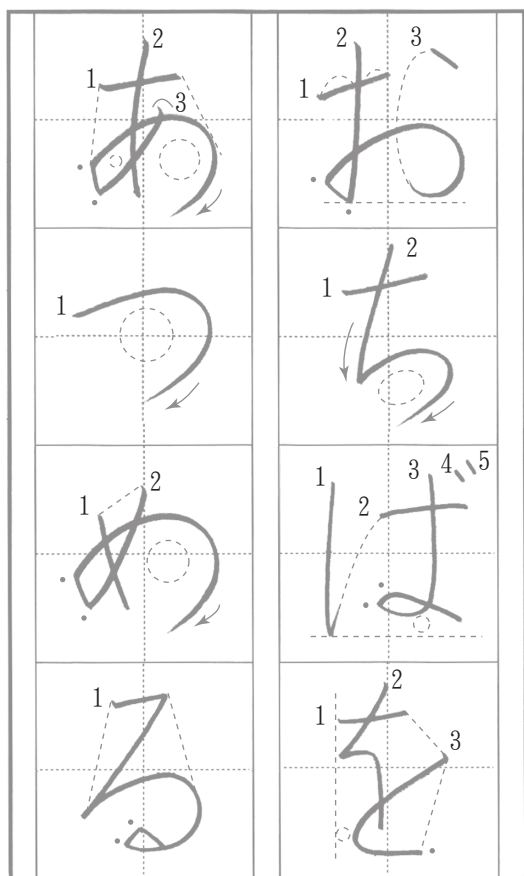
いよいよペン字展が始まります
今年春先より出品作の構想を
練り自分なりに仕上げました
先生のご批評をお願い致します
(自分の氏名)

〔条幅解説〕 今月は太と細、潤と渴等をもとにした
作例です。初心者の方もこの中の一つでも活かし
て書作して下さい。

〔大意〕 生死を超越し
たさとの境地に立て
ば、榮枯ともに空とな
る。
初出品の方へ
支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

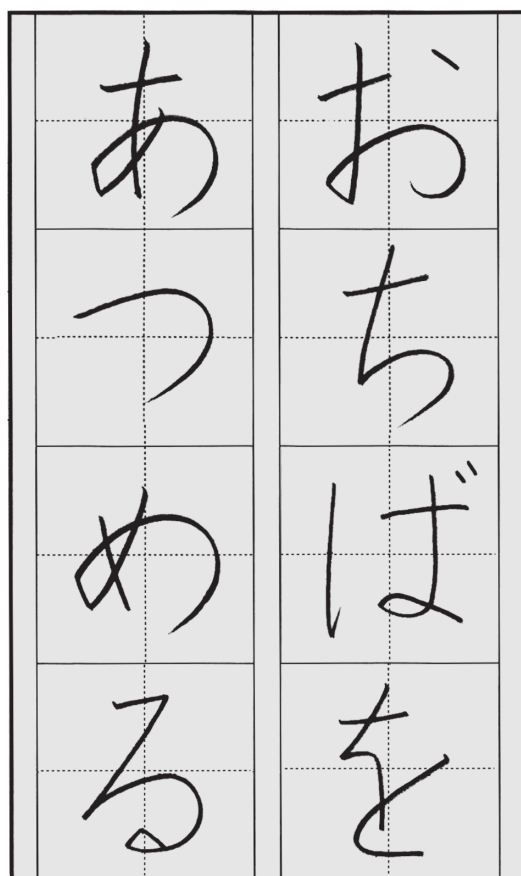
唯有無生三昧觀空
榮枯一照兩成空
白居易
荻田蒼仙書

〈ようぐ〉自由(黒色にかきこむ)



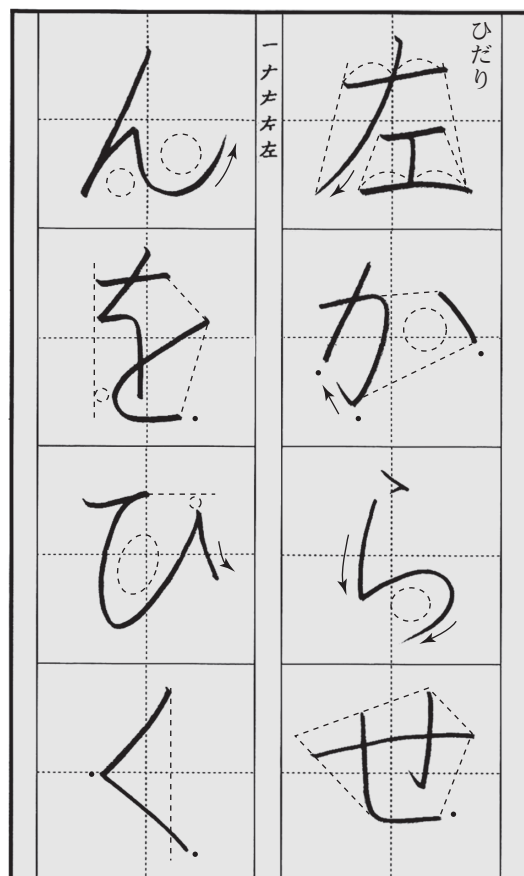
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



よ
う
年

幼年〜小三年まで
三宅容玉書



新入〜1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)

ヨウ	曜	つ
は	ぎ	の
休	の	金
み	金	金

新入1級

で	日	つ
出	は	ぎ
か	お	の
け	休	金
る	み	曜

準初段以上

小二年

準初段以上

を	宿
考	題
え	で
る	詩

新入1級

詩	が	宿
を	テ	題
考	ー	で
え	マ	家
る	の	族

準初段以上

小三年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

〈用具〉自由(黒色に限る)

ノクタ	夕 ^{ゆう}
み	飯 ^{はん}
薬 ^{ぐすり}	後 ^ゴ
を	に

新入1級

し	み	夕
か	薬	飯
ぜ	を	後
治	服	に
す	用	の

小四年

準初段以上

一ナ大	大 ^{ダイ}	祖 ^ソ
くは女好	好 ^{コウ}	父 ^フ
ヤヤ物物	物 ^{ブツ}	酸 ^{すっぱい}
		梅 ^{うめ}

解説(よく見て習いましょう)

が	ば	祖
大	い	父
好	梅	は
物	ぼ	酸
だ	し	っ

小五年

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

小四年以上 岡嶋桂川書

解説(よく見て習いましょう)

像	駅
待	裏
合	犬
	銅

用具 自由(黒色に限る)

小六年

待	犬	駅
ち	の	裏
合	銅	に
わ	像	あ
せ	で	る

(全員)

中二・三年 (行書)

加	積	献
協	極	血
力	的	運
す	に	動
る	参	へ

中一年 (行書)

は	短	目
肌	く	照
寒	な	時
い	り	間
ね	朝	が

▼小三年以下の課題

にし じ せい れん 蓮 書

長 ^{なが}	ひ	真 ^ま	見 ^み	青 ^{あお}
く	こ	っ	上 ^あ	い
の	う	白 ^{しろ}	げ	空 ^{そら}
び	き	な	れ	を
る	雲 ^{くも}		ば	
	が			

◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 10月25日(必着)

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題

はや かわ りん か 早 川 林 花 書

お	皆 ^{みな}	呼 ^よ	共 ^{きょう}	駅 ^{えき}
願 ^{ねが}	さん	び	同 ^{どう}	や
い	に	かけ	募 ^ぼ	街 ^{がい}
す	協力 ^{きょうりょく}	を	金 ^{きん}	頭 ^{とう}
る		して	の	で

◎お手本はつけペン使用

◇作品の出し方

- 一、選定用紙(五行・四行)に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名(校名)学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。(黒色に限る)
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。



幼年／小二年
水野碧友書





小三・小五年
玉樹小華書

中二・三
運 献
動 血

小六
銅 犬
像 の

小六・中二・三年
水野香竹書

◎気脈を大切にしよう。
朝 運 銅 像 寒 動

中一
い 肌
朝 寒